



7月13日(水)

2022年(令和4年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



未来は作るものである

事業活動を通じて社会課題の解決に取り組む「LIFUL」の井上高志社長が「#地球塾2050」で講演しました。参加した東京都千代田区立麴町中学校の1〜3年生20人に「自分たちの手で求める未来を作ることができる」と呼びかけました。

地球を守る

今の時代、世界の中でも戦争による被害を受けた人がたくさんいる。ではなぜ人は戦争をするのか。また、どうすれば皆が平和になるのだろうか。その原因を井上社長は、水、食料、住まい、教育、働く、医療、エネルギー、通信の奪い合いであると語った。そして、「この8つの制約から開放すれば富の奪い合いがなくなり、争いは起こらないのではないか？」と考へ、実現するために他の会社と協力し、あらゆる技術を駆使している。



例えば、使った水をろ過してまたきれいな水にすることができると。3Dプリンターで家を作ることだってできる。私はこれに感激を受けたと同時に、今後このようなものの開発が進むことによって、地球が良い方向に進んでいくのではないかと考えた。これからは明るい未来をつくる政策などに、常に興味を持っていきたいと思った。(福島采芭)

「安心」と「喜び」を

井上社長は大学生の頃、彼女に振られて、希望の企業には行けず、社会に出て5年以内に創業するという目標を持ちながら大手マンシヨンディベロッパーに就職した。ある若いご夫婦は理想の物件を見つけたが、バブルが崩壊したため購入直前で断念した。しかし井上社長は他社の物件を紹介し、最終的に理想の物件を購入できた。これが創業エ

ピソードだ。この創業のため、月間450時間ほど働き、パソコンと現金5万円からスタートした。社是として「利他主義」を掲げ、多くの人々が心から安心と喜びを得られる社会を目指している。

現在、世界には数多くの問題がある。それらはすぐに解決できない。だが井上社長は着実に目標を立て、人生をかけて人々のため日々努めている。

私たちも夢を見つけ、物事を楽しみ、人々が心からの安心と喜びを得られるよう務めることが必要なのではないか。(金田葵衣)

未来を負う「バカ」な夢

皆さんは子どもの頃、「世界平和」「世界の人々を幸せにしてあげる」など、今考えてみると、当時



の自分はバカかと思うような夢や人生ミッションがあったか？ 実は、井上社長は今もそんな「バカ」な人生ミッションを持っている。当時の自分は「バカ」かもと思うのは、自分ができる目標なんて、実現できないでしょう」と思うからだ。でも、井上社長はそれができると思う。

なぜなら、彼はその人生ミッションのために、もう行動している。例えば、ナスコンバレー、新経済連盟など。

「未来は予測するものじゃなく、作るものだ」という言葉聞いた。だから未来は一人一人の手に握られている。でも多くの人はそのことを意識していない。だから、いくら「バカ」のような夢でも、簡単な夢でも、最初の一歩さえ踏み出せば、いつか実現する、いつか未来を創る。

(宗佳恩)